

## 大気環境，横ばいで推移 —平成10年度大気環境の状況について—

横浜市では、大気環境の状況を把握するため、環境基準が定められている二酸化硫黄、二酸化窒素等の汚染物質について、一般環境大気測定局（以下「一般局」という）20局及び自動車排出ガス測定局（以下「自排局」という）8局の計28局で、年間にわたって自動測定機による連続測定を行っています。また、平成9年度より有害大気汚染物質の定時期定点測定も行っています。

このたび、平成10年度の測定結果がまとまりましたので、その概要をお知らせいたします。

（測定局一覧は、資料1ページ，表1，図1。環境基準と評価方法は、資料19ページ。）

なお、「一般局」，「自排局」で測定している主な大気汚染物質は、次のとおりです。

	二酸化硫黄	二酸化窒素	浮遊粒子状物質	一酸化炭素	光化学オキシダント
一般局	○	○	○		○（19局）
自排局		○	○	○（6局）	

○印で測定

### 測定結果の概要

#### <自動測定機による連続測定>

##### 1 二酸化硫黄（資料2～4ページ）

- ・二酸化硫黄については、昭和40年代から進めてきた工場等に対する規制・指導により排出総量が大幅に削減され、その環境濃度も大きく改善されております。
- ・環境基準（長期的評価）の適合状況は、全測定局で適合しています。（表2-1）
- ・年平均値の経年変化は、昭和42年度をピークに昭和50年度にかけて急激に低下し、その後も市内全域にわたって低濃度で推移しています。（表2-2，図2）

##### 2 二酸化窒素（資料5～9ページ）

- ・二酸化窒素については、「横浜市窒素酸化物対策指導要綱」等に基づき、工場等からの排出量について順次削減を図ってきました。一方、自動車に対しては排出ガス規制が段階的に強化されてきているものの削減効果はかばかしくない状況にあります。
- ・環境基準適合状況は、「一般局」の10局が適合しています。

（次頁の表及び資料の表3-1，3-3）

二酸化窒素の環境基準適合局数の推移 (適合局数/全局数)

年度	元	2	3	4	5	6	7	8	9	10
一般局	2/16	2/16	3/16	9/17	6/17	9/17	13/19	13/19	13/20	10/20
自排局	0/8	0/8	1/8	1/8	0/8	0/8	1/8	1/8	1/8	0/8

・年平均値の経年変化は、「一般局」、「自排局」とともに横ばいで推移しています。  
(表3-2, 3-4, 図3-1, 3-3)

・なお、環境基準である0.06ppmを超える日数の年間の割合は、この5年間、「一般局」で2.0~4.0% (7~15日)、「自排局」で10.2%~12.8% (37~47日)となっています。(図3-2, 3-4)

以上のとおり、二酸化窒素については、最近の5年間で見ますと、適合局数、年平均値ともに横ばいとなっています。

3 浮遊粒子状物質 (資料10~14ページ)

・浮遊粒子状物質については、昭和40年代から工場等における集じん機の設置やガス燃料への転換などにより、ばいじん排出量の削減を進めてきておりますが、自動車からの排出ガスや土壌からの舞い上がり、さらにガス状の大気汚染物質が粒子状物質に生成されるなど、発生源が多様なこともあって対策が進展しない状況にあります。

・環境基準(長期的評価)の適合状況は、「一般局」の4局が適合しています。

(表4-1, 4-3)

浮遊粒子状物質の環境基準適合局数の推移 (適合局数/全局数)

年度	元	2	3	4	5	6	7	8	9	10
一般局	0/16	0/15	0/16	1/17	2/17	0/17	1/19	2/19	5/20	4/20
自排局	0/8	0/8	0/8	0/8	0/8	0/8	0/8	0/8	0/8	0/8

・年平均値の経年変化は、「一般局」「自排局」とともに、ここ数年低下の傾向にあります。(表4-2, 4-4, 図4-1, 4-2)

4 一酸化炭素 (資料15~16ページ)

・一酸化炭素については、ほとんどが自動車から排出されているもので、昭和40年代後半からの自動車排出ガス規制の効果により環境濃度は大幅に改善されております。

・環境基準の適合状況は、全測定局で適合しています。(表5-1)

・年平均値の経年変化は、昭和52年度以降低下し、全市的に低濃度で推移しています。  
(表5-2, 図5)

5 光化学オキシダント（資料17～18ページ）

・光化学スモッグの指標である光化学オキシダントについては、「横浜市炭化水素系物質対策指導要綱」等に基づき、原因物質である炭化水素系物質の総排出量について、順次削減を図ってきました。

・これにより、光化学スモッグ注意報の発令回数及び届出被害者数については、昭和50年度前後をピークに減少しております。平成10年度は、注意報発令回数が4回で、届け出被害者はありませんでした。

なお、環境基準の適合状況は、9年度と同様全局で不適合となっています。

（表6-1～3）

<定時期定点測定>

6 有害大気汚染物質（資料20～21ページ）

（1）揮発性有機化合物等

環境基準が設定（平成9年2月）されているベンゼン、トリクロロエチレン及びテトラクロロエチレンなどの有害大気汚染物質の環境濃度を一般環境、道路沿道等5地点で隔月により6回測定しています。

ベンゼンについては、5地点のうち道路沿道の2地点で環境基準に不適合、トリクロロエチレン及びテトラクロロエチレンについては、すべての地点で環境基準に適合しています。（表7）

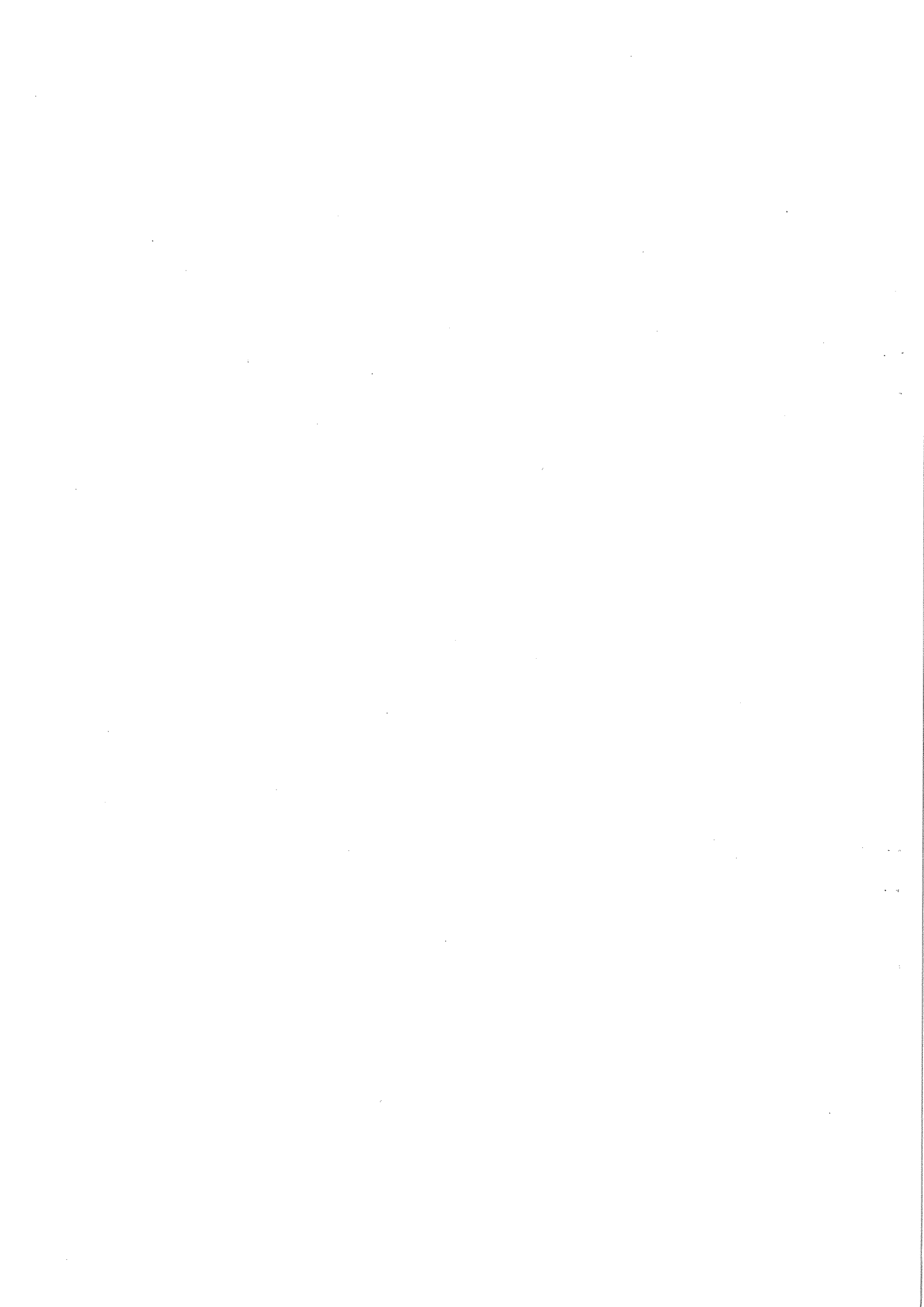
（2）ダイオキシン（既発表：平成11年4月22日）

大気環境中のダイオキシン濃度を把握するため、平成9年10月から季節ごとに測定を行っています。

測定は、9地点で平成10年5月、8月、11月、平成11年2月にそれぞれ24時間サンプリングを2回連続して行い、分析しました。

なお、これらの測定地点は、いずれも大気汚染物質濃度を常時測定している本市の一般環境大気測定局で、臨海部、都心部、郊外部等の地域性を考慮し、選定したものです。

各地点の年平均値は、0.21から0.41 pg-TEQ/m<sup>3</sup>の範囲にあり、9地点の平均は、0.32 pg-TEQ/m<sup>3</sup>でした。また、各地点とも環境庁で定めている大気環境指針値0.8 pg-TEQ/m<sup>3</sup>を下回っています。（表8）



資料

平成 1 0 年度大気環境の状況について

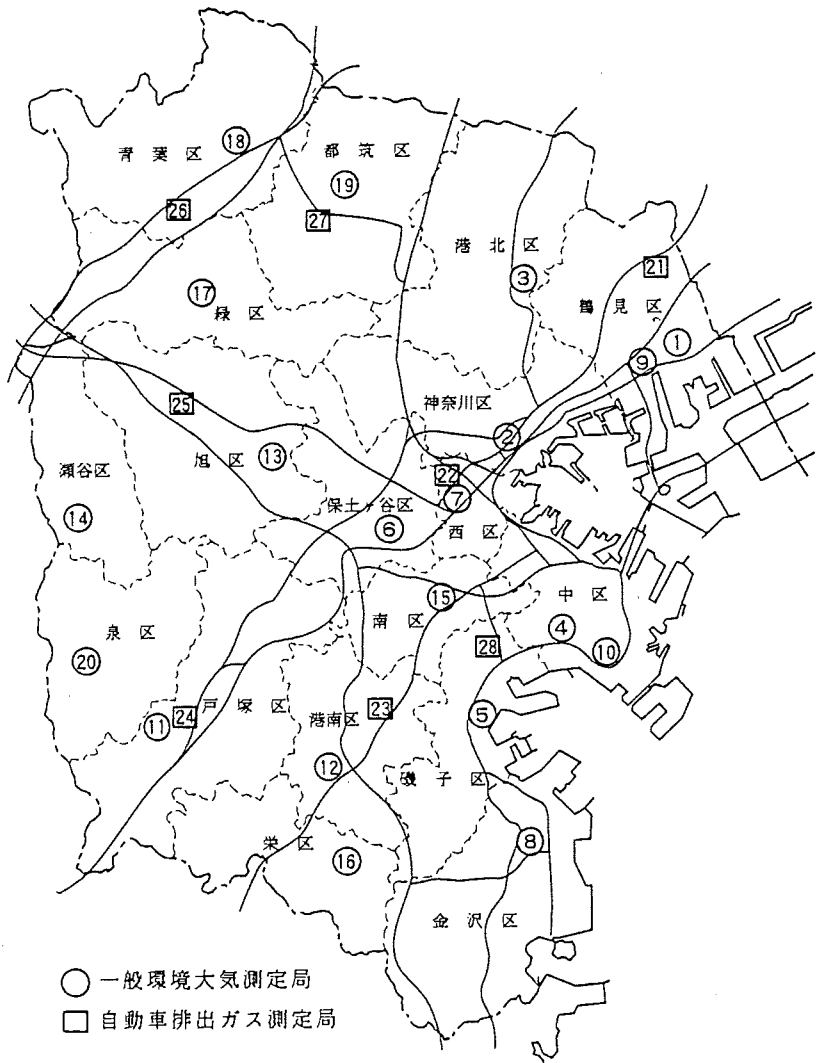


表1 測定局一覧

図1 大気常時監視測定局配置図

系統	地点番号	測定局
一般環境大気測定局	1	鶴見区潮田交流プラザ
	2	神奈川区総合庁舎
	3	港北区総合庁舎
	4	中区加曽台
	5	磯子区総合庁舎
	6	保土ヶ谷区桜丘高校
	7	西区平沼小学校
	8	金沢区長浜
	9	鶴見区生麦小学校
	10	中区本牧
	11	戸塚区波沢小学校
	12	港南区野庭中学校
	13	旭区鶴ヶ峯小学校
	14	瀬谷区南瀬谷小学校
	15	南区横浜商業高校
	16	栄区犬山小学校
	17	緑区三保小学校
	18	青葉区総合庁舎
	19	都筑区総合庁舎
	20	泉区総合庁舎
自動車排出ガス測定局	21	鶴見区下末吉小学校
	22	西区浅間下交差点
	23	港南中学校
	24	戸塚区矢沢交差点
	25	旭区都岡小学校
	26	青葉台
	27	環境都筑工場前
	28	磯子区滝頭

表 2 - 1 二酸化硫黄年間測定結果  
(一般環境大気測定局)

平成 10 年度

測 定 局	年平均値	1 時間値の 最高値	1 時間値が 0.1ppm を 超えた時間数とその 割合		日平均値の 2%除外値	長期的評価によ る環境基準の適 否
	(ppm)	(ppm)	(時間)	(%)	(ppm)	(適○, 否×)
鶴見区潮田交流プラザ	0.009	0.062	0	0.0	0.016	○
神奈川区総合庁舎	0.008	0.048	0	0.0	0.016	○
港北区総合庁舎	0.007	0.078	0	0.0	0.012	○
中区加曾台	0.009	0.071	0	0.0	0.017	○
磯子区総合庁舎	0.008	0.062	0	0.0	0.014	○
保土ヶ谷区桜丘高校	0.005	0.035	0	0.0	0.010	○
西区平沼小学校	0.006	0.049	0	0.0	0.012	○
金沢区長浜	0.006	0.033	0	0.0	0.012	○
鶴見区生麦小学校	0.008	0.062	0	0.0	0.015	○
中区本牧	0.009	0.086	0	0.0	0.016	○
戸塚区汲沢小学校	0.005	0.023	0	0.0	0.010	○
港南区野庭中学校	0.006	0.039	0	0.0	0.011	○
旭区鶴ヶ峯小学校	0.005	0.030	0	0.0	0.010	○
瀬谷区南瀬谷小学校	0.005	0.023	0	0.0	0.010	○
南区横浜商業高校	0.006	0.063	0	0.0	0.012	○
栄区犬山小学校	0.005	0.047	0	0.0	0.009	○
緑区三保小学校	0.005	0.030	0	0.0	0.009	○
青葉区総合庁舎	0.006	0.023	0	0.0	0.010	○
都筑区総合庁舎	0.007	0.032	0	0.0	0.013	○
泉区総合庁舎	0.006	0.023	0	0.0	0.011	○
平 均	0.007	-	0	0.0	0.012	-

表 2 - 2 二酸化硫黄濃度の経年変化 (年平均値)  
(一般環境大気測定局)

( p p m )

測定局 \ 年度	平成 元	2	3	4	5	6	7	8	9	10
鶴見区潮田交流プラザ	0.012	0.011	0.011	0.009	0.008	0.009	0.009	0.011	0.008	0.009
神奈川区総合庁舎	0.011	0.011	0.010	0.009	0.009	0.009	0.010	0.010	0.008	0.008
港北区総合庁舎	0.009	0.010	0.010	0.007	0.007	0.008	0.008	0.008	0.007	0.007
中区加曽台	0.012	0.012	0.013	0.011	0.010	0.010	0.010	0.010	0.009	0.009
磯子区総合庁舎	0.011	0.011	0.011	0.010	0.008	0.009	0.009	0.009	0.007	0.008
保土ヶ谷区桜丘高校	0.010	0.010	0.010	0.007	0.006	0.006	0.006	0.007	0.005	0.005
西区平沼小学校	0.010	0.009	0.010	0.009	0.007	0.007	0.007	0.007	0.006	0.006
金沢区長浜	0.008	0.008	0.009	0.008	0.007	0.007	0.006	0.007	0.006	0.006
鶴見区生麦小学校	0.010	0.010	0.010	0.008	0.008	0.009	0.009	0.008	0.008	0.008
中区本牧	0.012	0.010	0.011	0.010	0.009	0.009	0.009	0.009	0.008	0.009
戸塚区汲沢小学校	0.008	0.007	0.007	0.006	0.005	0.005	0.005	0.005	0.004	0.005
都筑区都田中学校	0.007	0.007	0.008	0.006	0.006	0.006	—	—	—	—
港南区野庭中学校	0.007	0.008	0.009	0.008	0.007	0.007	0.007	0.006	0.005	0.006
旭区鶴ヶ峯小学校	0.007	0.007	0.007	0.007	0.006	0.006	0.007	0.006	0.005	0.005
瀬谷区南瀬谷小学校	0.007	0.006	0.007	0.006	0.006	0.006	0.006	0.007	0.005	0.005
南区横浜商業高校	0.009	0.009	0.010	0.008	0.007	0.007	0.007	0.008	0.006	0.006
栄区犬山小学校	—	—	—	0.006	0.006	0.006	0.005	0.006	0.005	0.005
緑区三保小学校	—	—	—	—	—	—	0.005	0.006	0.005	0.005
青葉区総合庁舎	—	—	—	—	—	—	0.006	0.007	0.005	0.006
都筑区総合庁舎	—	—	—	—	—	—	0.007	0.008	0.007	0.007
泉区総合庁舎	—	—	—	—	—	—	—	—	0.006	0.006
平均	0.009	0.009	0.010	0.008	0.007	0.007	0.007	0.008	0.006	0.007

注：鶴見区潮田交流プラザの測定結果は、平成3年度までは旧鶴見保健所、4年度・5年度は鶴見区下野谷小学校の測定値を使用。



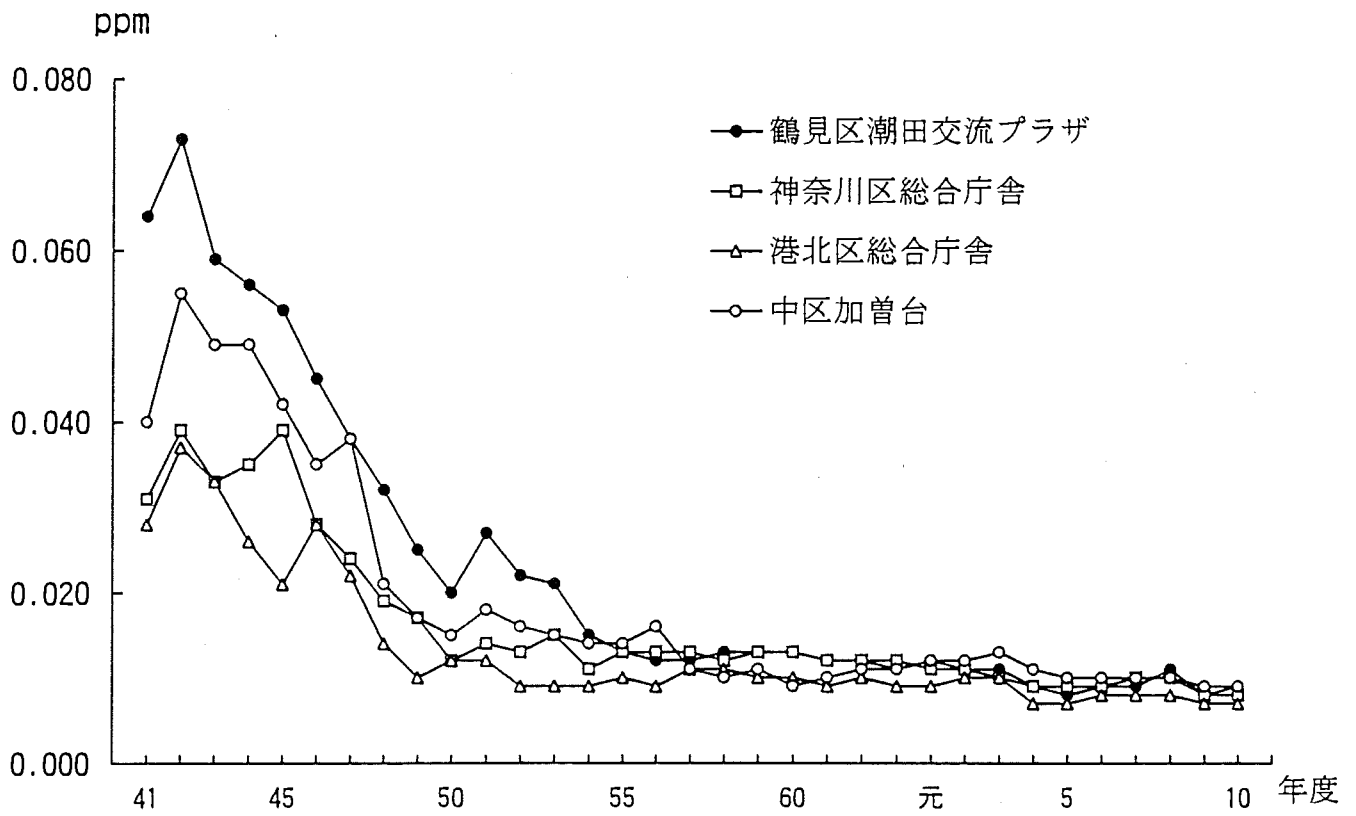


図2 継続4局における二酸化硫黄濃度の経年変化（年平均値）

表 3 - 1 二酸化窒素年間測定結果  
(一般環境大気測定局)

平成 1 0 年度

測 定 局	年平均値	日平均値の 年間98%値	日平均値が0.06ppm を超えた日数と割合		98%値評 価による 環境基準 の適否 適○ 否×	98%値評価に よる日平均値 が0.06ppmを 超えた日数  (日)
	(ppm)	(ppm)	日数	(%)		
鶴見区潮田交流プラザ	0.037	0.068	24	6.6	×	17
神奈川区総合庁舎	0.039	0.071	28	7.8	×	21
港北区総合庁舎	0.036	0.068	15	4.1	×	8
中区加曽台	0.035	0.073	24	6.6	×	17
磯子区総合庁舎	0.039	0.073	29	8.0	×	22
保土ヶ谷区桜丘高校	0.033	0.064	11	3.0	×	4
西区平沼小学校	0.036	0.069	22	6.0	×	15
金沢区長浜	0.026	0.057	6	1.7	○	0
鶴見区生麦小学校	0.036	0.067	19	5.3	×	12
中区本牧	0.032	0.066	15	4.1	×	8
戸塚区汲沢小学校	0.029	0.059	6	1.6	○	0
港南区野庭中学校	0.029	0.059	7	1.9	○	0
旭区鶴ヶ峯小学校	0.030	0.056	5	1.4	○	0
瀬谷区南瀬谷小学校	0.031	0.054	3	0.8	○	0
南区横浜商業高校	0.033	0.067	14	3.8	×	7
栄区犬山小学校	0.028	0.059	7	1.9	○	0
緑区三保小学校	0.028	0.052	1	0.3	○	0
青葉区総合庁舎	0.033	0.055	2	0.5	○	0
都筑区総合庁舎	0.032	0.057	5	1.4	○	0
泉区総合庁舎	0.030	0.055	6	1.6	○	0
平 均	0.033	0.062	12	3.4	—	7

表 3-2 二酸化窒素濃度の経年変化 (年平均値)  
(一般環境大気測定局)

(ppm)

測定局 \ 年度	平成 元	2	3	4	5	6	7	8	9	10
鶴見区潮田交流プラザ	0.040	0.041	0.042	0.040	0.038	0.037	0.038	0.037	0.038	0.037
神奈川区総合庁舎	0.037	0.039	0.042	0.040	0.039	0.040	0.037	0.037	0.038	0.039
港北区総合庁舎	0.036	0.036	0.035	0.036	0.035	0.037	0.037	0.037	0.036	0.036
中区加曽台	0.032	0.031	0.033	0.032	0.032	0.031	0.032	0.033	0.033	0.035
磯子区総合庁舎	0.034	0.035	0.040	0.038	0.038	0.037	0.035	0.033	0.037	0.039
保土ヶ谷区桜丘高校	0.030	0.031	0.032	0.033	0.031	0.032	0.033	0.031	0.032	0.033
西区平沼小学校	0.037	0.036	0.035	0.036	0.035	0.036	0.036	0.036	0.035	0.036
金沢区長浜	0.026	0.026	0.028	0.027	0.027	0.026	0.024	0.025	0.024	0.026
鶴見区生麦小学校	0.036	0.038	0.038	0.038	0.038	0.037	0.036	0.036	0.035	0.036
中区本牧	0.029	0.029	0.032	0.031	0.030	0.031	0.031	0.030	0.029	0.032
戸塚区汲沢小学校	0.028	0.028	0.030	0.028	0.029	0.027	0.026	0.029	0.028	0.029
都筑区都田中学校	0.027	0.029	0.030	0.029	0.028	0.028	—	—	—	—
港南区野庭中学校	0.030	0.028	0.029	0.029	0.027	0.028	0.027	0.028	0.028	0.029
旭区鶴ヶ峯小学校	0.031	0.029	0.031	0.030	0.030	0.029	0.031	0.031	0.030	0.030
瀬谷区南瀬谷小学校	0.032	0.032	0.031	0.033	0.033	0.032	0.032	0.033	0.032	0.031
南区横浜商業高校	0.032	0.033	0.036	0.035	0.035	0.034	0.032	0.033	0.030	0.033
栄区犬山小学校	—	—	—	0.025	0.025	0.025	0.024	0.027	0.026	0.028
緑区三保小学校	—	—	—	—	—	—	0.028	0.028	0.027	0.028
青葉区総合庁舎	—	—	—	—	—	—	0.035	0.035	0.033	0.033
都筑区総合庁舎	—	—	—	—	—	—	0.031	0.033	0.032	0.032
泉区総合庁舎	—	—	—	—	—	—	—	—	0.028	0.030
平均	0.032	0.033	0.034	0.033	0.032	0.032	0.032	0.032	0.032	0.033

注：鶴見区潮田交流プラザの測定結果は、平成3年度までは旧鶴見保健所、4年度・5年度は鶴見区下野谷小学校の測定値を使用。

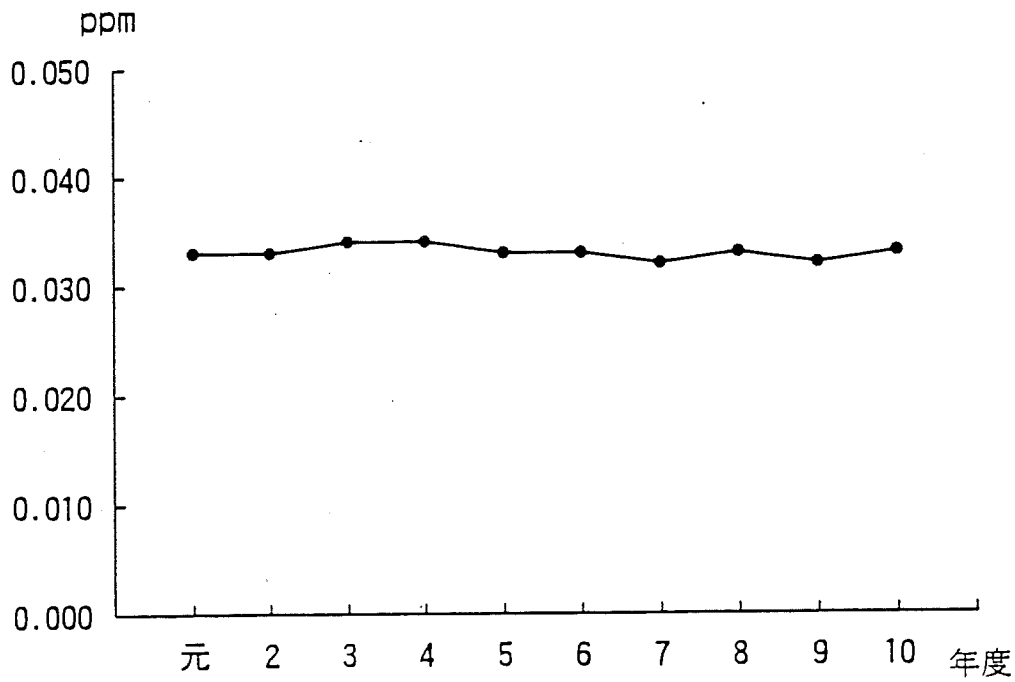


図3-1 二酸化窒素濃度の経年変化 (一般局10年継続15局年平均値)

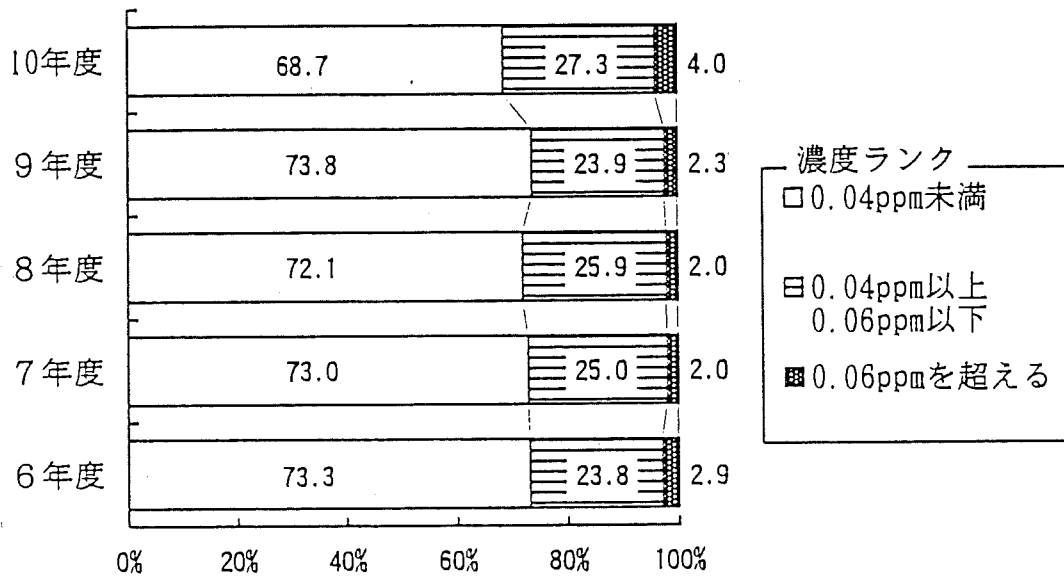


図3-2 二酸化窒素日平均濃度のランク別割合 (一般局5年継続16局平均)

表 3 - 3 二酸化窒素年間測定結果  
(自動車排出ガス測定局)

平成 1 0 年度

測 定 局	年平均値	日平均値の 年間98%値	日平均値が0.06ppm を超えた日数と割合		98%値評 価による 環境基準 の適否 適○、 否×	98%値評価に よる日平均 値が0.06ppmを 超えた日数 (日)
	(ppm)	(ppm)	日数	(%)		
鶴見区下末吉小学校	0.044	0.078	48	13.2	×	41
西区浅間下交差点	0.054	0.083	135	37.2	×	128
港南中学校	0.040	0.072	31	8.5	×	24
戸塚区矢沢交差点	0.040	0.066	15	4.2	×	8
旭区都岡小学校	0.043	0.072	38	10.4	×	31
青葉台	0.042	0.068	33	9.1	×	26
環境都筑工場前	0.034	0.062	9	2.5	×	2
磯子区滝頭	0.047	0.076	63	17.3	×	56
平 均	0.043	0.072	47	12.8	—	40

表 3 - 4 二酸化窒素濃度の経年変化 (年平均値)  
(自動車排出ガス測定局)

(ppm)

測定局	年度	平成 元	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	鶴見区下末吉小学校	0.045	0.046	0.046	0.044	0.045	0.041	0.043	0.043	0.043	0.044
西区浅間下交差点	0.053	0.052	0.052	0.051	0.051	0.051	0.054	0.053	0.052	0.054	
磯子警察署前	0.050	0.049	0.054	—	—	—	—	—	—	—	
港南中学校	0.038	0.038	0.040	0.038	0.037	0.038	0.039	0.039	0.039	0.040	
戸塚区矢沢交差点	0.041	0.041	0.041	0.040	0.041	0.040	0.039	0.041	0.039	0.040	
旭区都岡小学校	0.041	0.040	0.043	0.041	0.040	0.042	0.041	0.042	0.042	0.043	
青葉台	0.037	0.040	0.039	0.040	0.039	0.039	0.040	0.041	0.041	0.042	
環境都筑工場前	0.036	0.035	0.035	0.034	0.034	0.036	0.034	0.034	0.032	0.034	
磯子区滝頭	—	—	—	0.053	0.048	0.052	0.052	0.049	0.047	0.047	
平 均	0.043	0.043	0.044	0.043	0.042	0.042	0.043	0.043	0.042	0.043	

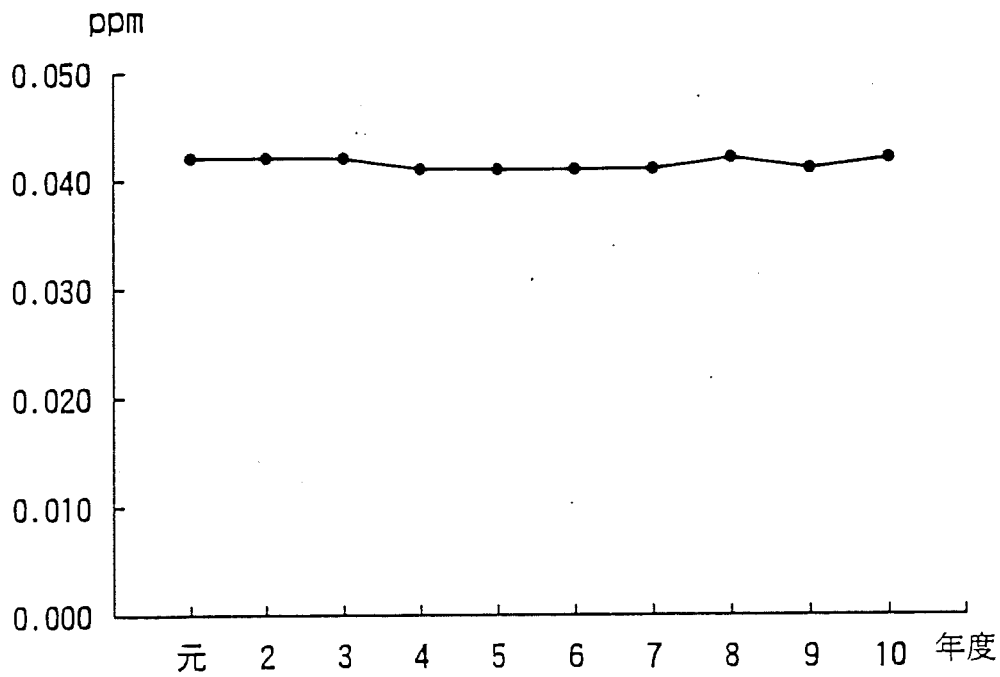


図3-3 二酸化窒素濃度の経年変化（自排局10年継続7局年平均値）

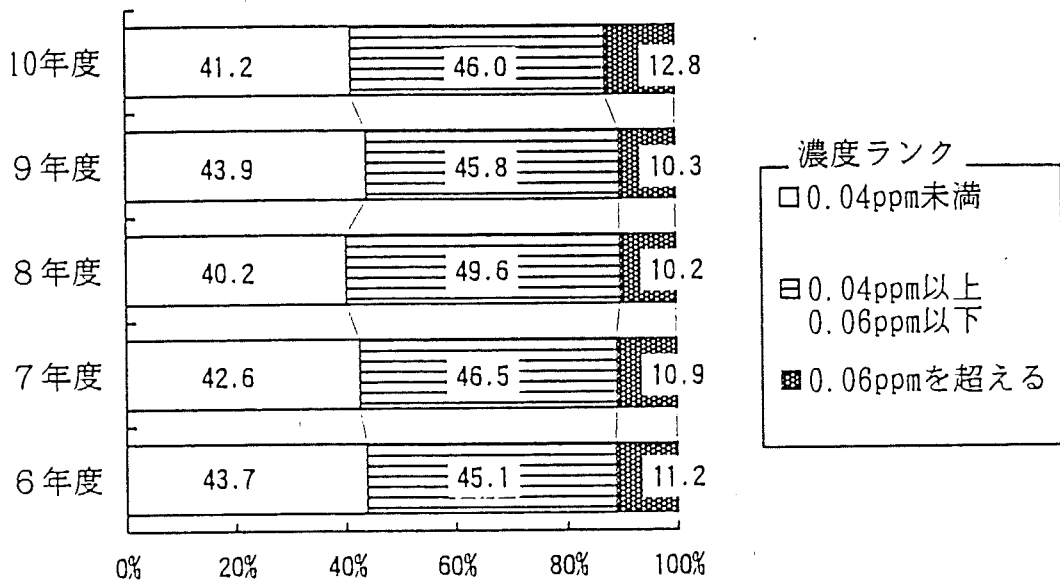


図3-4 二酸化窒素日平均濃度のランク別割合（自排局全8局平均）

表 4 - 1 浮遊粒子状物質年間測定結果  
(一般環境大気測定局)

平成 10 年度

測 定 局	年平均値 (mg/ m <sup>3</sup> )	1 時間値が 0.20 mg/ m <sup>3</sup> を超えた時間 数とその割合		日平均値が 0.10 mg/ m <sup>3</sup> を超えた日数 とその割合		日平均値の 2 % 除外値 (mg/ m <sup>3</sup> )	長期的評価によ る環境基準の適 否 (適○, 否×)
		(時間)	(%)	(日)	(%)		
鶴見区潮田交流プラザ	0.039	34	0.4	11	3.0	0.111	×
神奈川区総合庁舎	0.038	30	0.3	11	3.0	0.105	×
港北区総合庁舎	0.040	41	0.5	13	3.6	0.117	×
中区加曽台	0.035	26	0.3	9	2.5	0.105	×
磯子区総合庁舎	0.039	35	0.4	14	3.9	0.117	×
保土ヶ谷区桜丘高校	0.037	40	0.5	11	3.0	0.109	×
西区平沼小学校	0.043	65	0.7	18	4.9	0.138	×
金沢区長浜	0.028	3	0.0	2	0.6	0.081	○
鶴見区生麦小学校	0.042	45	0.5	16	4.4	0.124	×
中区本牧	0.033	18	0.2	5	1.4	0.098	○
戸塚区汲沢小学校	0.040	47	0.5	13	3.6	0.116	×
港南区野庭中学校	0.030	0	0.0	2	0.5	0.076	○
旭区鶴ヶ峯小学校	0.036	23	0.3	10	2.8	0.106	×
瀬谷区南瀬谷小学校	0.040	32	0.4	9	2.5	0.110	×
南区横浜商業高校	0.041	53	0.6	18	5.0	0.121	×
栄区犬山小学校	0.031	13	0.1	4	1.1	0.091	○
緑区三保小学校	0.038	34	0.4	10	2.8	0.110	×
青葉区総合庁舎	0.041	51	0.6	14	3.8	0.117	×
都筑区総合庁舎	0.037	35	0.4	11	3.0	0.110	×
泉区総合庁舎	0.039	52	0.6	17	4.7	0.117	×
平 均	0.037	34	0.4	11	3.0	0.109	—

表 4 - 2 浮遊粒子状物質濃度の経年変化 (年平均値)  
(一般環境大気測定局)

(m g / m<sup>3</sup>)

測定局 \ 年度	平成 元	2	3	4	5	6	7	8	9	10
鶴見区潮田交流プラザ	0.054	0.049	0.052	0.046	0.045	0.044	0.042	0.045	0.041	0.039
神奈川区総合庁舎	0.051	0.054	0.058	0.052	0.048	0.048	0.042	0.040	0.039	0.038
港北区総合庁舎	0.057	0.050	0.056	0.055	0.051	0.049	0.042	0.041	0.041	0.040
中区加曽台	0.052	0.037	0.044	0.043	0.038	0.037	0.035	0.034	0.033	0.035
磯子区総合庁舎	0.047	0.042	0.049	0.047	0.042	0.042	0.038	0.037	0.036	0.039
保土ヶ谷区桜丘高校	0.045	0.042	0.047	0.041	0.041	0.041	0.041	0.039	0.038	0.037
西区平沼小学校	0.052	0.049	0.053	0.046	0.046	0.047	0.049	0.045	0.043	0.043
金沢区長浜	0.036	0.033	0.036	0.031	0.033	0.033	0.030	0.029	0.029	0.028
鶴見区生麦小学校	0.058	0.050	0.055	0.052	0.049	0.050	0.046	0.044	0.042	0.042
中区本牧	0.041	0.037	0.043	0.038	0.037	0.037	0.036	0.033	0.033	0.033
戸塚区汲沢小学校	0.046	0.045	0.057	0.056	0.052	0.049	0.046	0.043	0.042	0.040
都筑区都田中学校	0.046	0.042	0.045	0.040	0.039	0.042	—	—	—	—
港南区野庭中学校	0.043	0.037	0.040	0.038	0.034	0.036	0.034	0.032	0.031	0.030
旭区鶴ヶ峯小学校	0.061	0.049	0.043	0.037	0.046	0.052	0.057	0.048	0.041	0.036
瀬谷区南瀬谷小学校	0.056	0.049	0.055	0.053	0.052	0.049	0.045	0.043	0.042	0.040
南区横浜商業高校	0.048	0.047	0.056	0.055	0.048	0.047	0.042	0.040	0.040	0.041
栄区犬山小学校	—	—	—	0.038	0.035	0.036	0.033	0.031	0.030	0.031
緑区三保小学校	—	—	—	—	—	—	0.041	0.041	0.038	0.038
青葉区総合庁舎	—	—	—	—	—	—	0.045	0.043	0.043	0.041
都筑区総合庁舎	—	—	—	—	—	—	0.042	0.040	0.039	0.037
泉区総合庁舎	—	—	—	—	—	—	—	—	0.039	0.039
平均	0.050	0.044	0.049	0.045	0.043	0.043	0.041	0.039	0.038	0.037

注：鶴見区潮田交流プラザの測定結果は、平成3年度までは旧鶴見保健所、4年度・5年度は鶴見区下野谷小学校の測定値を使用。



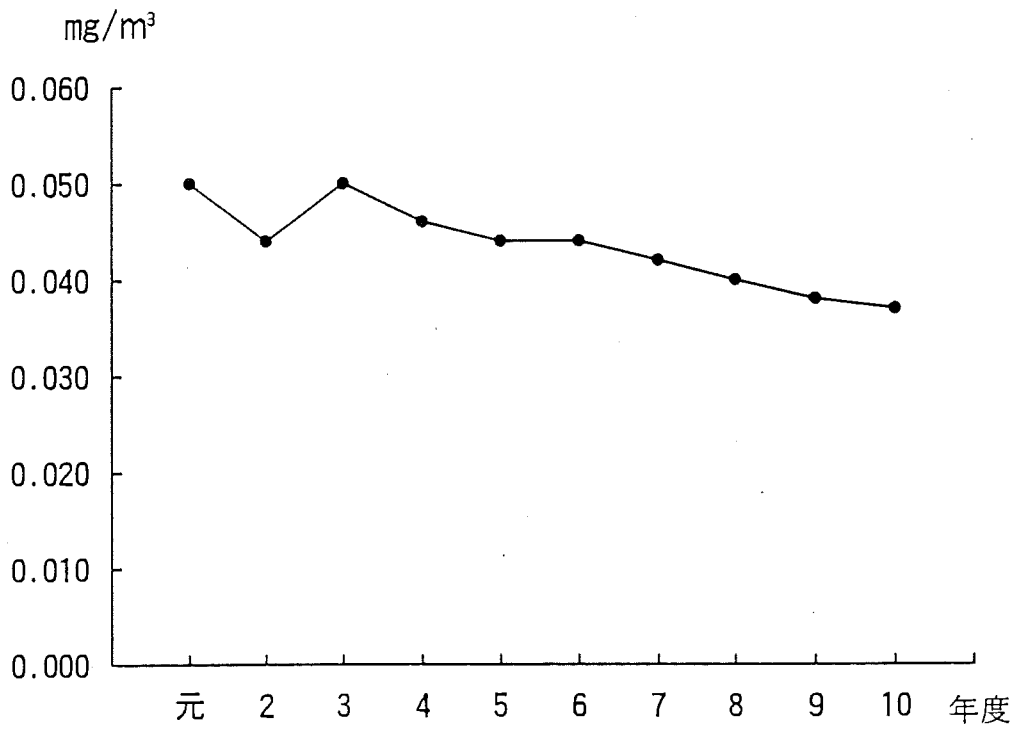


図4-1 浮遊粒子状物質濃度の経年変化（一般局10年継続15局年平均値）

表4-3 浮遊粒子状物質年間測定結果  
(自動車排出ガス測定局)

平成10年度

測定局	年平均値 (mg/ m <sup>3</sup> )	1時間値が0.20 mg/ m <sup>3</sup> を超えた時間 数とその割合		日平均値が0.10 mg/ m <sup>3</sup> を超えた日数 とその割合		日平均値の 2%除外値 (mg/ m <sup>3</sup> )	長期的評価によ る環境基準の適 否 (適○, 否×)
		(時間)	(%)	(日)	(%)		
鶴見区下末吉小学校	0.051	46	0.5	14	3.9	0.123	×
西区浅間下交差点	0.074	204	2.3	69	18.9	0.160	×
港南中学校	0.042	55	0.6	18	4.9	0.124	×
戸塚区矢沢交差点	0.044	69	0.8	18	4.9	0.125	×
旭区都岡小学校	0.053	103	1.2	30	8.2	0.140	×
青菜台	0.055	40	0.5	25	6.8	0.132	×
環境都筑工場前	0.046	36	0.4	15	4.1	0.122	×
磯子区滝頭	0.068	102	1.2	47	12.9	0.141	×
平均	0.054	82	0.9	30	8.1	0.133	—

表4-4 浮遊粒子状物質濃度の経年変化(年平均値)  
(自動車排出ガス測定局)

(mg/ m<sup>3</sup>)

測定局	年度	平成元	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	鶴見区下末吉小学校	0.066	0.053	0.056	0.051	0.052	0.055	0.056	0.057	0.055	0.051
西区浅間下交差点	0.065	0.066	0.085	0.081	0.078	0.081	0.074	0.074	0.074	0.074	
磯子警察署前	0.094	0.061	0.067	—	—	—	—	—	—	—	
港南中学校	0.057	0.051	0.055	0.055	0.051	0.050	0.046	0.044	0.042	0.042	
戸塚区矢沢交差点	0.062	0.054	0.061	0.060	0.056	0.052	0.048	0.045	0.045	0.044	
旭区都岡小学校	0.083	0.075	0.083	0.083	0.070	0.066	0.061	0.058	0.056	0.053	
青菜台	0.070	0.068	0.073	0.063	0.063	0.069	0.066	0.062	0.055	0.055	
環境都筑工場前	0.053	0.055	0.063	0.055	0.054	0.056	0.059	0.053	0.050	0.046	
磯子区滝頭	—	—	—	0.076	0.085	0.096	0.086	0.078	0.074	0.068	
平均	0.069	0.060	0.068	0.066	0.064	0.066	0.062	0.059	0.056	0.054	

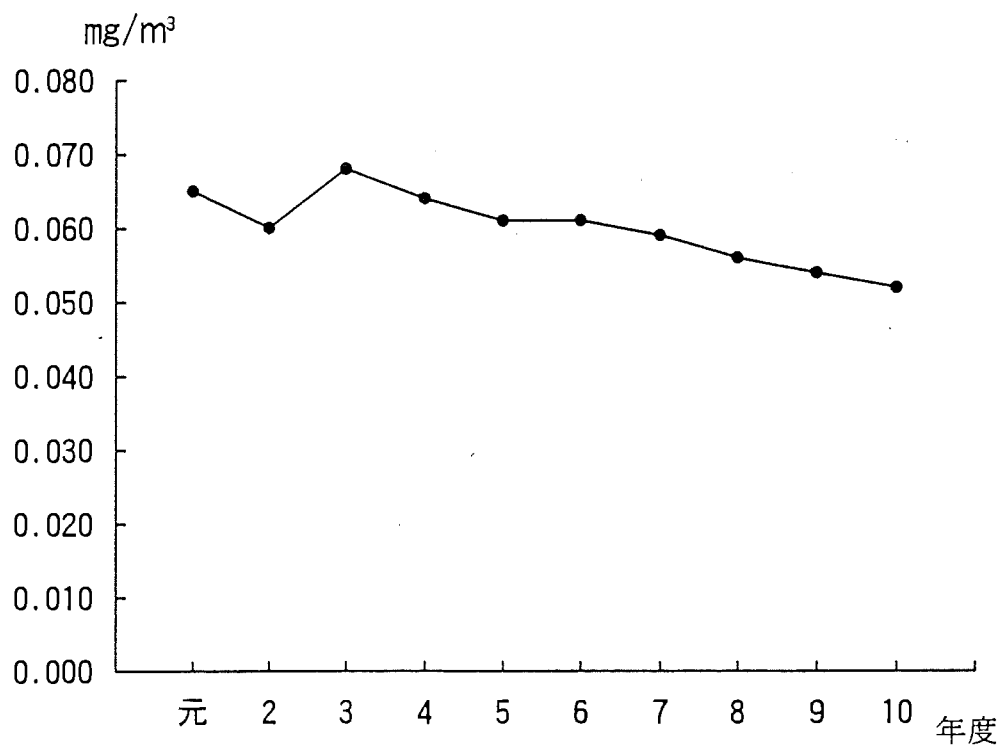


図4-2 浮遊粒子状物質濃度の経年変化（自排局10年継続7局年平均値）

表 5 - 1 一酸化炭素年間測定結果  
(自動車排出ガス測定局)

平成 1 0 年度

測 定 局	年平均値 (ppm)	8時間値が20ppm を超えた回数とその割合		日平均値が10ppm を超えた日数とその割合		日平均値 の2%除 外値 (ppm)	長期的評価によ る環境基準の適 否 (適○, 否×)
		(回)	(%)	(日)	(%)		
鶴見区下末吉小学校	1.2	0	0.0	0	0.0	2.4	○
西区浅間下交差点	2.0	0	0.0	0	0.0	3.6	○
港南中学校	1.0	0	0.0	0	0.0	2.6	○
戸塚区矢沢交差点	1.0	0	0.0	0	0.0	2.2	○
旭区都岡小学校	1.3	0	0.0	0	0.0	2.9	○
青葉台	1.1	0	0.0	0	0.0	2.2	○
平 均	1.3	0	0.0	0	0.0	2.7	-

表 5 - 2 一酸化炭素濃度の経年変化 (年平均値)  
(自動車排出ガス測定局)

(ppm)

測定局 \ 年度	平成 元	2	3	4	5	6	7	8	9	10
鶴見区下末吉小学校	1.2	1.3	1.2	1.1	1.0	1.0	1.0	1.3	1.2	1.2
西区浅間下交差点	2.7	2.4	2.5	2.3	2.2	2.1	2.1	2.1	2.0	2.0
磯子警察署前	2.0	1.9	-	-	-	-	-	-	-	-
港南中学校	1.5	1.4	1.5	1.4	1.2	1.2	1.1	1.1	1.0	1.0
戸塚区矢沢交差点	1.1	1.3	1.3	1.2	1.2	1.1	1.0	1.0	1.0	1.0
旭区都岡小学校	2.3	2.2	2.1	1.9	1.7	1.6	1.5	1.5	1.4	1.3
青葉台	1.5	1.4	1.5	1.4	1.4	1.3	1.2	1.2	1.1	1.1
環境都筑工場前	1.2	0.9	-	-	-	-	-	-	-	-
平 均	1.7	1.6	1.7	1.6	1.5	1.4	1.3	1.4	1.3	1.3

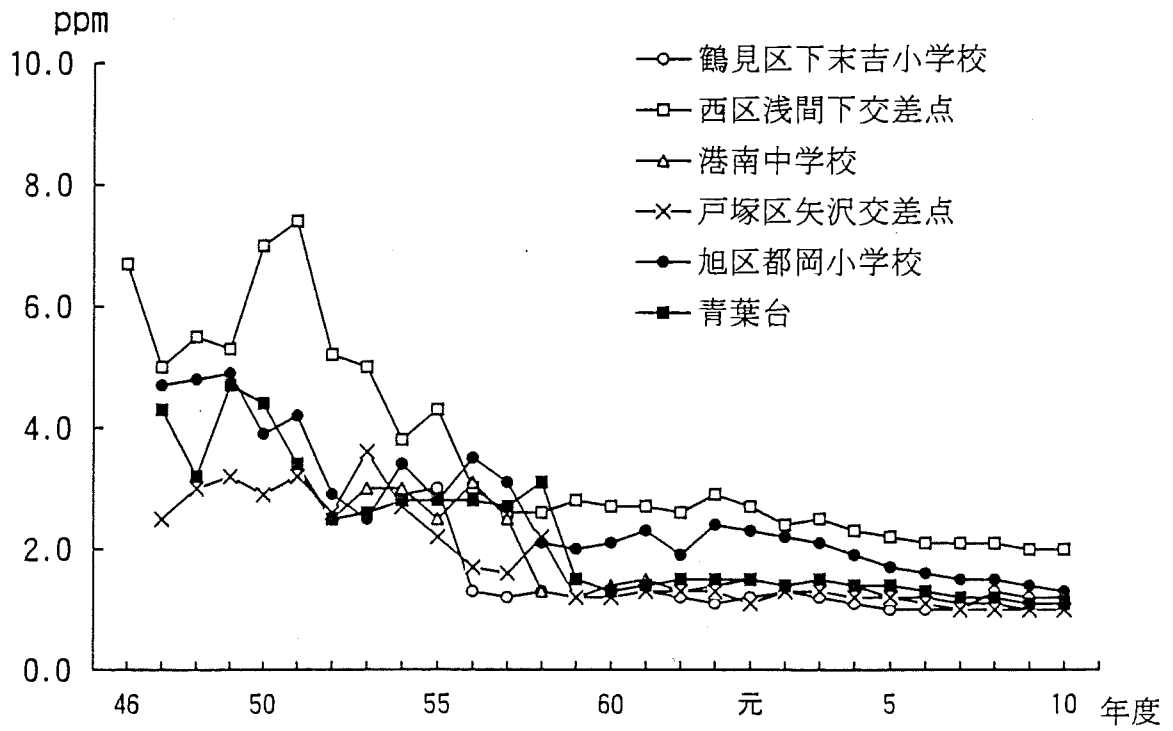


図5 継続6局における一酸化炭素濃度の経年変化（年平均値）

表 6 - 1 光化学オキシダント年間測定結果  
(一般環境大気測定局)

平成 1 0 年度

測 定 局	昼間の 1 時 間値の年平 均値	昼間の 1 時間値が 0.06ppm を超えた 日数と時間数		昼間の 1 時間値が 0.12ppm 以上の日 数と時間数		昼間の 1 時 間値の最高 値	環境基準の適否
	( p p m )	( 日 )	( 時間 )	( 日 )	( 時間 )	( p p m )	( 適○, 否× )
鶴見区潮田交流プラザ	0.025	41	145	2	4	0.159	×
神奈川区総合庁舎	0.024	45	171	3	5	0.154	×
港北区総合庁舎	0.021	35	138	1	1	0.127	×
磯子区総合庁舎	0.024	26	78	0	0	0.107	×
保土ヶ谷区桜丘高校	0.028	61	259	3	4	0.127	×
西区平沼小学校	0.028	56	250	3	5	0.145	×
金沢区長浜	0.026	36	133	0	0	0.116	×
鶴見区生麦小学校	0.026	49	197	3	8	0.171	×
中区本牧	0.028	60	232	1	1	0.130	×
戸塚区汲沢小学校	0.030	66	306	2	2	0.135	×
港南区野庭中学校	0.025	61	273	3	3	0.135	×
旭区鶴ヶ峯小学校	0.023	44	179	2	2	0.134	×
瀬谷区南瀬谷小学校	0.029	60	290	2	3	0.136	×
南区横浜商業高校	0.026	47	178	2	2	0.124	×
栄区犬山小学校	0.031	88	435	4	10	0.154	×
緑区三保小学校	0.026	43	212	3	6	0.140	×
青葉区総合庁舎	0.026	50	236	2	3	0.148	×
都筑区総合庁舎	0.030	65	286	3	5	0.157	×
泉区総合庁舎	0.030	70	334	3	5	0.154	×
平 均	0.027	53	228	2	4	—	—

表6-2 光化学スモッグ注意報発令状況

平成10年度

回数	発令日 (曜日)	措置 種類	発令時刻	市内オキシダント 最高値 (ppm)	市内届出 被害者数	神奈川県内他地域発令状況
1	5月21日 (木)	注意報	15:20~17:30	0.145 犬山小(15時)	0人	横須賀 湘南 西湘
2	7月4日 (土)	注意報	12:20~16:30	0.171 生麦小(13時)	0人	横須賀 川崎
3	7月7日 (火)	注意報	14:20~16:00	0.154 神奈川(15時)	0人	川崎
4	8月13日 (木)	注意報	13:20~17:40	0.139 神奈川(14時)	0人	川崎 横須賀 湘南 西湘

表6-3 光化学スモッグ注意報発令回数及び届出被害者数の推移

	年度	昭和	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59
	注意報発令回数	8	10	20	9	12	7	3	11	4	3	8	2	3	4	
警報発令回数	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0		
届出被害者数(人)	2337	834	1545	205	6175	823	909	61	268	0	454	3	178	65		

	年度	昭和	60	61	62	63	平成	元	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	注意報発令回数	6	2	12	2	2	2	5	5	10	3	8	11	5	3	4	
警報発令回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
届出被害者数(人)	113	0	136	7	0	0	340	90	0	12	0	0	0	0			

大気汚染に係わる環境基準と評価方法について

物 質	環 境 基 準	評価方法
二酸化硫黄	1時間値の1日平均値が0.04ppm以下であり、かつ1時間値が0.1ppm以下であること。	長期的評価 * 1
二酸化窒素	1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内またはそれ以下であること。	98%値評価 * 2
浮遊粒子状物質	1時間値の1日平均値が0.10mg/m <sup>3</sup> 以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m <sup>3</sup> 以下であること。	長期的評価 * 1
一酸化炭素	1時間値の1日平均値が10ppm以下であり、かつ、1時間値の8時間平均値が20ppm以下であること。	長期的評価 * 1
光化学オキシダント	1時間値が0.06ppm以下であること。	昼間 * 3

\* 1 長期的評価

年間の1日平均値のうち、高いほうから2%の範囲にあるものを除外した後の最高値（2%除外値）を環境基準と比較して評価する。ただし、環境基準を超える日が2日以上連続した場合は、非達成と評価する。

\* 2 98%値評価

年間の1日平均値のうち、低いほうから98%に相当するものを環境基準に比較して評価する。

\* 3 昼間

5～20時のデータを対象とする。



表7 有害大気汚染物質濃度測定結果（平成10年度）

（単位： $\mu\text{g}/\text{m}^3$ ）

測定場所 測定項目	鶴見区 潮田交流プラザ (一般局)	港南区 野庭中学校 (一般局)	緑区 三保小学校 (一般局)	戸塚区 矢沢交差点 (自排局)	磯子区 滝頭 (自排局)
アクリロニトリル	0.094	0.066	0.060	0.068	0.080
塩化ビニルモノマー	0.12	0.034	0.047	0.033	0.035
クロロホルム	0.23	0.17	0.17	0.18	0.18
1,2-ジクロロエタン	0.18	0.13	0.14	0.16	0.16
ジクロロメタン	8.1	2.5	3.0	3.9	2.6
テトラクロロエチレン	0.78	0.74	0.65	0.74	0.72
トリクロロエチレン	1.9	1.2	1.1	1.2	1.4
1,3-ブタジエン	0.32	0.21	0.23	0.43	0.65
ベンゼン	2.6	2.2	2.2	3.4	4.2
アセトアルデヒド	2.7	2.1	2.1	2.5	2.8
ホルムアルデヒド	4.2	2.5	2.7	3.2	5.0
ベンゾ(a)ピレン	0.00055	0.00044	0.00056	0.0011	0.00079
ニッケル化合物	0.011	0.0044	0.0042	0.0082	0.0090
バリウム及びその化合物	0.00006	0.00006	0.00006	0.00011	0.00006
マガン及びその化合物	0.042	0.026	0.029	0.044	0.047
鉛及びその化合物	0.010	0.0041	0.0042	0.0072	0.0084
ひ素及びその化合物	0.0018	0.0015	0.0015	0.0017	0.0020
水銀及びその化合物	0.0028	0.0030	0.0027	0.0033	0.0030

環境基準：ベンゼン 0.003 $\text{mg}/\text{m}^3$  (3 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ ) 以下  
 (年平均値) トリクロロエチレン 0.2  $\text{mg}/\text{m}^3$  (200 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ ) 以下  
 テトラクロロエチレン 0.2  $\text{mg}/\text{m}^3$  (200 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ ) 以下

- 1 測定期間  
平成10年4月から平成11年3月(隔月, 6回)。
- 2 測定結果  
6回の平均値。

表8 大気環境中のダイオキシン濃度測定結果（平成10年度）

（単位：pg-TEQ/m<sup>3</sup>）

測定地点	10年5月 春		10年8月 夏		10年11月 秋		11年2月 冬		年平均値
	①	②	①	②	①	②	①	②	
1 鶴見区生麦小学校	0.17	0.28	1.0	0.68	0.39	0.39	0.14	0.21	0.41
2 西区平沼小学校	0.23	0.25	0.47	0.55	0.38	0.34	0.13	0.77	0.39
3 中区本牧	0.20	0.23	0.51	0.47	0.30	0.27	0.18	0.17	0.29
4 旭区鶴ヶ峯小学校	0.33	0.25	0.32	1.1	0.35	0.54	0.21	0.20	0.41
5 港北区総合庁舎	0.21	0.19	0.36	0.28	0.38	0.37	0.20	0.21	0.28
6 青葉区総合庁舎	0.37	0.29	0.19	0.17	0.38	0.50	0.085	0.18	0.27
7 戸塚区汲沢小学校	0.20	0.27	0.23	0.32	0.40	0.54	0.16	0.22	0.29
8 栄区犬山小学校	0.34	0.20	0.15	0.16	0.26	0.38	0.073	0.12	0.21
9 瀬谷区南瀬谷小学校	0.35	0.24	0.48	0.30	0.41	0.57	0.33	0.31	0.37
市内9地点の平均	0.27	0.24	0.41	0.45	0.36	0.43	0.17	0.27	0.32

単位 pg：ピコグラム。1ピコグラムは、1兆分の1グラム。

TEQ = 「毒性等量」。ダイオキシン類の量を、ダイオキシン類の中で最も毒性の強い2,3,7,8-四塩化ジベンゾ-p-ダイオキシン類の量に換算した量として表していることを示す符号。